

会議録

会議の名称	令和7年度第4回東松山市障害者計画等策定委員会部会					
開催日時	令和8年1月14日（水曜日）			開会	午前 9時30分	
				閉会	午前 11時30分	
開催場所	東松山市役所 分室西棟2階 会議室1					
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 第四次市民福祉プラン等策定に係る基礎調査結果について (2) 第四次市民福祉プラン取り組み案について (3) 第四次市民福祉プラン「めざす姿」について (4) その他 3 その他					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数	0人		
委員出欠状況	部会長	佐藤 美奈	出	委員	磯貝 瑞	出
	委員	丹羽 彩文	欠	委員	若尾 勝己	欠
	委員	原口 展昭	出			
事務局	障害者福祉課 浅野副課長			障害者福祉課 小松主査		
	障害者福祉課 金子主任					
次第	顛 末					
1 開会 事務局（障害者福祉課浅野副課長）	<p>本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。ご挨拶が申し遅れましたが、本年もどうぞよろしくお願ひします。それでは只今から、東松山市障害者計画等策定委員会部会を始めさせていただきます。</p> <p>本日の司会進行を務めます、障害者福祉課の浅野と申します。ご協力よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、次第に沿って進めさせていただき、早速議事に移りたいと思います。東松山市障害者計画等策定委員会条例第7条第3項の規定により、部会長が議長となることになっております。佐藤部会長、議事の進行をお願ひいたします。</p> <p>なお、本日の会議の会議録作成にあたりまして、出席委員2名の方に署名をお願ひしたいと存じます。本日の会議録につきましては、磯貝委員と原口委員にお願ひしたいと思います。後日、会議録ができましたら事務局よりご連絡を差し上げますので、ご署名をお願ひいたします。</p> <p>また、本日は議事の内容から会議時間が長くなる可能性がございます。途中、適宜休憩を挟みたいと考えております。</p> <p>では、佐藤部会長よろしくお願ひいたします。</p>					

佐藤部会長	<p>では、議事の進行を努めます。皆様、ご協力よろしくお願ひいたします。</p> <p>はい、議事に入る前に確認をします。東松山市審議会等の会議の公開に関する要綱では、公開・非公開の決定を会に諮って決めることとなっています。本日の議題には特段非公開とすべき事項はないように思いますけれども、公開とすることによってよろしいでしょうか。</p> <p>—異議なし—</p>
佐藤部会長	<p>では、本日の会議は公開とします。</p> <p>事務局に確認します。本日の会議の傍聴者はいらっしゃいますか。</p>
事務局（障害者福祉課浅野副課長）	<p>いらっしゃいません。</p>
<p>2 議事</p> <p>佐藤部会長</p>	<p>わかりました。それでは、議事に移ります。議事第1号「第四次市民福祉プラン等策定に係る基礎調査結果について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局（障害者福祉課金子主任）	<p>— 議事第1号（資料1、2、3）について説明 —</p>
佐藤部会長	<p>ご説明ありがとうございました。では、資料1についてご意見やご質問はありますか。</p> <p>質問ではありませんが、資料1の3ページの体裁について、「就労や教育の課題について」の記載の2つ目、「障害者本人」という見出しの「工賃」と「から」の間に段落が入ってずれています。</p> <p>色々と考えさせられる内容のご意見もありましたが、これは最終的に市民公開の資料になりますか。</p>
事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>今回からその予定です。</p>
佐藤部会長	<p>そうしたときに、例えば、就労継続支援B型がこういう状況にあるとか、グループホームがこう、という事業名は良いと思いますが、事業所の固有名詞が出ている記載があると思います。その整理はどうしていく予定でしょうか。</p> <p>例えば、10ページや11ページです。特に、11ページの「仕事について」は、東松山市障害者就労支援センターという記載があり、後にも出てきますが、ここは公的施設なので、残すのかなどです。</p> <p>10ページにも、サポート事業には色々な事業所があるけれど、いわはなを選んでいる。ほかの事業所は慣れないので頼みづらいが、いわはなの予約が取れないと</p>

	<p>あります。いわはなについての記載ですが、サポート事業全体の課題でもあると思うところであり、もはやどこも予約が取れない状況です。</p> <p>ただ、サービス報酬の単価が低いので、廃業している事業者も複数出ていることに対して市の施策を考えるとということであるとすると、固有名詞をどう捉えるのか。ただ一方で、いわはなの設置は市の単独事業で、その活動について今回新たに掲載されるということもありますので、どういった記載をするのかが疑問です。</p> <p>また、あすみーも記載がありますが、これは地域活動支援センターのことを指していると思います。ヒアリングでご意見を頂いた方は、あすみーに来ている方だと思いますが、同様に機能強化型(I)を取っている地域活動支援センターはもう一事業所あるので、そちらはどうだろうということであれば、地域活動支援センターの事業に対して、様々な障害像の人も活動ができるということについて触れるのか、その事業所について触れるのかということが、捉えづらかったです。</p> <p>このほかにも固有名詞が出てくるところがあるので、固有名詞の取り扱いについてご検討いただけるといよいよかと思います。</p> <p>私から続けてになりますが、22ページ、「市の障害者施策の周知度の評価」について、10団体からの回答のうち「3 あまり周知されていない」が5団体、「2 ある程度周知されている」が3団体ということで、周知されていると回答した団体が半数を割っている状況で「一定の周知がされている」と表現してよいか疑問です。周知もしているけれど、なかなか届いていない状況がわかったという方が適切かと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>それから、23ページ、「③ 障害者施策で、団体・機関として課題に感じていること」の「連携と情報共有の課題」の2行目、「保護者の需要」という表記について、「受容」なのか「需要」なのか、どちらだろうかと思いました。「需要」だとすると、保護者がたくさん利用したいと思っているという意味になりますが、実際のところ必要なかどうかという内容であるとするならば、この文脈と合わないように思いました。だとすると、受け止める方の「受容」のように思いますが、いかがでしょうか。</p>
事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>後ほど原本を確認させていただきたいと思います。</p>
佐藤部会長	<p>原本とおっしゃったので、記載内容をそのまま載せていると思うのですが、その次の「福祉サービス提供体制の課題」で「児発」という文言が出てきます。障害福祉サービスの略語で、一般の人にはわかりづらいと思います。</p> <p>最後に、33ページ、ここは触れられ方が違いますが、具体的な事業所名が出ていますので、検討をお願いいたします。</p>
事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>ありがとうございます。固有名詞の整理としては、東松山市障害者就労支援センターザックや東松山市障害者生活支援センターいわはななど、市の施設は記載し、それ以外の事業所名が記載された部分については削除したつもりでございました。</p>

<p>事務局（障害者福祉課金子主任）</p>	<p>指摘をいただき、一部漏れていたことに気づきました。基本的に東松山市障害者就労支援センターと障害者生活支援センターいわはなは記載し、その他、ご指摘をいただいたあすみーるなど事業所名の固有名詞については修正をさせていただきたいと考えます。</p> <p>ご意見いただきました22ページの「一定の周知がされている」という記載につきましては、ご指摘の通り過半数の団体からあまり周知されていないという回答がありましたので、文言の修正をさせていただければと思います。</p> <p>また、23ページについては、原文をそのまま記載してあると思われます。こちらでは判断がつかねるところもありますので、改めて記載内容を確認させていただき、追記・修正等を検討したいと考えます。</p> <p>併せて、「児発」のような、略語について、修正したいと思います。ご意見ありがとうございます。</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>これは感想になりますが、原文のままということで、17ページ、「③利用者支援から感じる障害のある人や家族の困りごとや課題」の「本人に対する支援の難しさ」について、項目の2つ目、相談系サービス事業者の意見になりますが、「落としどころを見出す」という、相談支援の中で、言葉として言うことはありますが、こうした資料に掲載されるのは残念に思いました。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>では、資料2の障害者・市民・中学生の方に対するアンケート結果について、何かご意見等があればお願いします。</p> <p>3ページの回答率について説明の中で、3対象のうち2対象は、だいたい3ポイントから5ポイントほど、前回よりも回答率が上がっているとのことでした。一方で、中学生アンケートが12ポイント下がっているというのは大きいと思いますが、理由についてお聞かせいただきたいです。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>今回からウェブ回答を併用させていただきました。今まではすべて紙で送って、紙で回収をするというものでした。そういった新たな手法を取り入れた結果、障害者と市民については、これまで18歳から39歳の回答割合がとても低く、比較的高齢の方からの回答が多いような状況でしたが、今回、18歳から39歳の回答割合が増えておりますので、そこはウェブ回答を取り入れた効果と認識をしております。その年齢層からの回答数が上乘せされたことによって、障害者と市民については、若干回答率が増加しているものと考えております。</p> <p>逆に、中学生アンケートにつきましても、今までは紙で配布し、学校の先生が回収をしていました。そのため、提出していない生徒やクラスを学校が把握することが可能でしたが、ウェブ回答になったことで、把握ができなくなりました。</p>
<p>事務局（障害者福祉課金子主任）</p>	<p>各校に回答状況の確認をさせていただいた中では、学級閉鎖や学校行事等の兼ね合いで実施がなかなかできなかったという学校もありました。</p>

	<p>また、先ほどご説明したとおり、ウェブ回答については、先生方が生徒の回答状況がわからないことから、回答を徹底することが難しかったことが理由として挙げられると思います。</p>
佐藤部会長	<p>わかりました。ありがとうございます。やはり良し悪しがありますね。</p>
事務局（障害者福祉課金子主任）	<p>余談になりますが、一部の学校からの意見では、障害者福祉課だけでなく、市やその他の機関等からも様々なアンケートの依頼が寄せられるとのことで、学校側でも管理しきれていないと伺いました。アンケートの回答状況については、担任の先生や教務主任でも確認ができないというお話があり、そういった学校側の背景もあるように思います。</p>
議員委員	<p>資料2について、全体的な表現への意見になりますが、表の数字が見づらいと思います。件数を上段に、パーセントを下段に示していますが、数字が多く、先ほどご説明いただいた時にどこを指しているのかがなかなか見つからなかったもので、パーセントを分かりやすくしていただけると読みやすくなると思います。</p>
事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>表の記載について全般的なご意見ですね。例えば、下段に色をつけることや、件数だけの表、パーセントだけの表で分けるなど、わかりやすい表現に修正させていただきたいと思います。策定委員会まで期間も限られているので、どこまで対応が可能か委託業者と相談させていただきたいと思います。</p>
佐藤部会長	<p>ほかはよろしいですか。</p>
原口委員	<p>では、感想になりますが、本当に膨大な資料をまとめいただきありがとうございました。そして、障害の認知について、周知がされていない、認知がされていないという内容が圧倒的多かったような気がいたします。</p> <p>一方で、健常な方にとっては関心が低い、そういった情報に接することが少ないということがあると思います。ですが、障害のある方の生活については、健常な方も含めた全体の認知が高まらなければ、難しいことがありますので、社会全体に対し、様々なことについて認識を高めていくことが社会の課題ではないかということがわかったように思います。</p>
佐藤部会長	<p>誤字になるかと思いますが、74ページ、下の表で「利用予定あり」で始まる文章の「地域密着」は「地域定着」かと思います。</p>
事務局（障害者福祉課金子主任）	<p>ご指摘ありがとうございます。修正させていただきます。</p>
佐藤部会長	<p>サービス量については、「ちょうどいい」と回答している人が多いですが、やは</p>

	<p>り短期入所や行動援護が少ないという点が改めて見えたように思います。</p> <p>昨日、入所施設の相談員の方と少しお話をしましたが、今、短期入所のご相談の8割が児童で、子どもの短期入所先がないとお伺いしました。</p> <p>今のお子さんたちは児童発達支援や放課後等デイサービスなど、障害福祉サービス利用に慣れている方たちです。彼らが今後大人になったときに、行動援護や短期入所がますます足りなくなるのではと思いました。</p> <p>繰り返しになりますが、子どもの短期入所先がないというのは、私たちサービス調整する側も本当に困っています。受け入れ先がないという認識はあるので、この短期入所に係る数字の中で、子どもだけ切り出すと、ニーズは多く、パーセントとしては跳ね上がってくるのではないかと思います。</p> <p>資料3のアンケート記述・自由記述集についてはなにかございますか。こちらは自由記述なので、ご意見というより感想になるかもしれません。</p> <p>記述集の中に、総合福祉エリアで短期入所したいという意見がありました。できるようになるとよいと思います。</p> <p>自由記述も含めて公開とする予定ですか。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>今まで本市では、こういった調査結果をホームページで公開していませんでした。今度の第四次市民福祉プランの取組の中でも、障害のある方ご自身の声を発信していくことに取り組むこととしております。その一つとして、こういったアンケート結果を公表することも、市民の方の認知度を上げることにつながる取り組みと考えられますので、今回の結果に関しては、ホームページで公開をする予定です。ただ、自由記述も含めて公開するかについては悩ましいところです。数字データだけの公表とするか、自由記述欄も含めて公表するかについて、ご意見などがあれば伺いたいところです。</p>
<p>議員委員</p>	<p>固有名詞の記載がかなり多いように思います。</p> <p>ちなみに、アンケートを取る際に、結果を市のホームページで公表するというのは、予め了承を取っているのでしょうか。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>アンケート用紙にはそこまでは記載していません。結果は、計画策定にあたって活用させていただくことや、個人を特定されない形で扱うことは注意事項として記載しています。そのため、自由記述を公開するかについては慎重に検討したいと考えているところです。</p> <p>こうした率直な意見を読むことで、障害のある人の感じ方や生活がよくわかるという実感もある一方で、偏った意見も一部ございます。いただいたご意見を踏まえて考えますと、固有名詞の記載が多いので、載せる記述と載せない記述があると、なぜ自分の意見が載っていないのかということにもつながるので、自由記述についても公表は難しいように思います。</p>

<p>議員委員</p>	<p>この内容をホームページに公表するという方針であれば、アンケート調査の際にそのことを記載したうえで調査していただければ、回答者も承知のうえで記載していることになるかと思います。全体的にまとめて数字の結果として公表する分には問題はないと思いますが、計画の検討のために使うとしか記載していないとすると、多くの人の目に触れるようなホームページでの公開とは思っていない方もいるかと思います。公開することを想定していない人もいるかもしれない中では、取り扱いが難しいように思います。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>頂いたご意見を踏まえて、今回はアンケート送付にあたって、公表を前提とする断りを記載して実施はしておりませんので、データだけ公開し、自由記述については非公開として扱いたいと思います。また、次回以降、調査する際の課題として検討してまいりたいと思います。</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>東松山市地域自立支援協議会のSDGs／合理的配慮推進プロジェクトで、今回の自由記述の内容を加工して、合理的配慮例集などよい冊子ができそうな感じがします。内容が詳しく書いてあってすごいですよね。</p>
<p>原口委員</p>	<p>自由記述の一つ一つを取りあげると問題があるとは思いますが、どういう項目に発言が偏っているとか、AIなどで分析できるのであればよいと思います。ただし、内容が膨大なので、こういった形でアンケートをまとめるだけでも大変だなと思います。何か調べたいときなどに、これを元に分析すれば、実はこういうアイデアがあった、答えがあった、もしくは信用できないなど、そういう個別具体的なことがありますので、情報提供すると気になる部分があるとは思いますが。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>そのあたりも次回以降、検討していけたらと思います。</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>自由記述についてはよろしいですか。 続いて、議事第2号「第四次市民福祉プラン取り組み案について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>— 議事第2号（資料4）について説明 —</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>ありがとうございました。皆様からご意見、ご質問お願いします。</p>
<p>議員委員</p>	<p>赤字の箇所ではないのですが、3ページの方針2、9番の第四次取組（案）について、「就園、就学、進学等の節目において」という記載と「次の所属先への」とい</p>

<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>う記載が追加されていますが、この表現ですと、節目のみの対応という印象を受けてしまうように思いました。次の所属先にバトンタッチするという印象が強くなってしまったように感じます。節目は大事なところではありますが、バトンタッチするだけでは足りないの、節目に向けて常に連携をしていかないとうまく繋がらないことがあります。今回、「節目」と「次の所属先」という文言を入れたことについて、なにか意図があつてのことだと思しますので質問させていただきました。</p> <p>ありがとうございました。青字で修正をさせていただいた箇所は、左側の列にある、前回提案させていただいた内容だと具体的に何をやるのかがわかりにくいというご意見がありましたので、なるべく具体的にイメージが湧くように追記をした文言になります。それが返って限定的な印象を与えるというご意見だったと認識しております。今回の追記した内容が正しいかどうかは、ぜひご意見をいただきたくったところです。この青字の部分、「就園、就学、進学等の節目において」、「次の所属先への」という文言については、限定的に感じてしまうようであれば、追記を削除させていただきます。おっしゃるとおり、支援は特に節目に限ったことではございませんし、その後も切れ目のない継続的な支援ができるようにという趣旨で記載しておりますので、この項目は前回提案の記載内容に戻すということも可能です。</p> <p>市として実際に取り組む際に、節目で途切れることがないように、バトンタッチを確実にしていくことは最低限必要なことだと思います。具体的なイメージが湧くように見直した際、節目に関するイメージは少なくとも湧くかと思ひ追記をした次第です。ただ、節目しかやらないということではなく、「等」という部分それ以外の支援が含まれています。</p>
<p>議員委員</p>	<p>節目は非常に大切に、確実に次につなぐということも大事だと思います。次につなぐためには、その前から助走が必要になると思うので、一緒に助走しながらスムーズにつないでいく。時には引き続き、手は離さず伴走するような部分も必要になります。ほかの箇所に「連携し」とあるものの、この記載は連携のイメージが逆に薄くなってしまったと感じています。ただ、前回の記載は確かにふわっとした印象もありますので、今回の記載は具体的に書いていただいてイメージしやすいものもあります。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>節目というのは、所属先の変更だけではなく、その人によって色々な節目が人生の中であると思っています。ここでは「共に育ち、共に学ぶ」という子どもに関する取り組みの位置づけにあります。18歳以降はどう支援するかといったことも現在、庁内でも検討しているところではあります。</p> <p>表現についてはどうしましょう。本来は切れ目のない支援を行うということが趣旨ではあります。関係機関が連携し、情報は「提供」ではなく「共有」の方がいいかもしれません。子どもに係る施策なので、冒頭の「就園、就学、進学等の節目において」としている部分について、節目というのは転学や転籍の場合もありますが、そこは「等」に含まれているという考え方をしています。</p>

<p>議員委員</p>	<p>一般的には就園、就学、進学ですが、辞めてしまうという節目もあります。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>転籍や不登校、退学、高校中退などいろいろな可能性はあります。</p>
<p>議員委員</p>	<p>ただ、そのすべてを書き込むわけにもいかないですね。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>例えば、中学卒業後、通信制の高校に入った子が、中退しているかもしれませんが、その情報はなかなか行政では把握が難しいという現実もありますので、文章中の「次の所属先への」については削除させていただき、連携というところに軸をおいて情報の「提供」ではなく「共有」に修正をさせていただきます。 冒頭の文言はどうでしょうか。</p>
<p>原口委員</p>	<p>就園、就学、進学について連携が必要というのは、どういうところから寄せられる想定でしょうか。例えば、就学であればその後の教育部門から連携しましょうという話になるのでしょうか。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>そうですね。状況によって連携する部門は組み合わせが変わってくると思いますが、例えば、就園というタイミングを切り取るならば、健康推進課の方で療育的に支援が必要な保護者と子どもに対して支援をしているぱんだ教室というものがあります。就園する場合には、ぱんだ教室からは抜けることとなります。次に通う、幼稚園や保育園に対し、そのお子さんに関する療育の面での情報共有や連携を図っていくことも想定されますし、保育園や幼稚園から小学校に上がるタイミングで、保護者も含め関係機関が集まる機会である教育センター主催の引き継ぎ会も情報共有や連携の場面と考えています。 また、公立の地域の学校から特別支援学校への転学の相談件数も非常に増えておりと伺っておりますので、そういった場面でも十分な連携が図れたらと思っております。</p>
<p>原口委員</p>	<p>これは母子保健部門から児童福祉部門への引き継ぎだとか、ある状況にいるお子さんが障害福祉部門や教育部門などで集まって話し合いしましょうといった様々な場面が考えられるので、節目に限らないと考えると、子どもの育ちの現状を把握して必要な連携を行うなど、そういった内容を記載するとよいと思います。 現状の把握をするところが決まっていて、特別支援学校でケース会議や情報交換会などがたくさんありますが、コーディネーターが市役所や放課後等デイサービス事業所に電話するなどして、連携を取っております。そのように現状をよく把握した上で必要な連携を行っていく、担当部署が変わる時には引き継ぎが必要十分に行われるようにといったニュアンスが含まれるのではないかと思います。</p>

事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>表現についてはこの場で整理ができず申し訳ありませんが、頂いたご意見を踏まえますと、節目という限定した記載ではなく、必要な状況に応じて、随時というような文言に修正したいと思います。ありがとうございました。</p>
佐藤部会長	<p>そのほかのところ、同じ3ページの7番、「児童発達支援センターの相談の入り口機能として」で始まる文章ですが、児童発達支援センターの機能を見ると、地域の発達支援に関する入り口としての相談機能と書かれています。この箇所に関してはそのとおりに記載し、その下の「発達に係る相談について」は削除してもよいのではないかと思います。</p>
事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>ありがとうございます。後ほどこちらも確認させていただきます。「発達支援に係る相談の入り口としての相談機能」に文言修正し、「発達にかかる相談について」は削除の方向で全体的に修正させていただきます。</p>
佐藤部会長	<p>5ページの1番の内容について、以前どこが何をするか分かりづらいといった意見があったと思いますが、ここで「東松山市障害者就労支援センターが」という主語が冒頭に出てくるのがストレートなように思います。心身の状況や障害特性に応じた多様な働き方ができるよう、障害者就労支援センターが企業に働きかけますといった文言でもよいと思います。</p>
事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>ありがとうございます。修正させていただきます。</p>
佐藤部会長	<p>7ページの「相談機能の強化」の3番について、議員委員にもご意見を伺いたいのですが、「基幹相談支援センター事業等により、研修等の実施を通じて相談支援事業者の技術向上・人材育成を図ります」という中の、「技術向上」という文言は適切でしょうか。</p>
議員委員	<p>あまり使わない気がします。</p>
佐藤部会長	<p>「援助技術」や「相談技術」とは言うことがありますが。</p>
議員委員	<p>「技術向上」だと何の技術か分かりにくいように思います。</p>
佐藤部会長	<p>文章中に「相談支援」と入っているので援助技術の向上を指すことは分かるかと思いますが、個人的にあまり聞きなれないように思いました。確認いただいて技術向上という文言が一般的に使われていればよいと思います。</p>
事務局（障害者福祉課小松主査）	<p>国の表現を確認させていただいて、必要に応じて修正させていただきます。</p>

<p>社課小松主査)</p>	
<p>佐藤部会長</p>	<p>同じく7ページの「バリアフリーの推進」の17番、ここは手話通訳「者」派遣事業が正しいです。</p> <p>消防署の通報訓練をやっていますが、委託仕様書に記載されている取組ではないので、これを見て継続するんだとは思いました。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査)</p>	<p>方法等も含め、よりよい実施方法を模索していきたいと思います。</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>ただ、ずっと市の職員の方にも参加いただいているので、感謝しています。</p>
<p>議員委員</p>	<p>感染対策が削除されなくてよかったです。災害時、感染対策は避難所にしてもどこにしても非常に重要で、感染症によって命を落とされる方が多いので、よかったです。</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>事業者のBCP（事業継続計画）も義務化されましたね。ほかはいかがですか。よろしいでしょうか。</p> <p>続いて、次の議事に移ります。「第四次市民福祉プラン「めざす姿」について」、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査)</p>	<p>— 議事第3号（資料5）について説明 —</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありました。何かご意見、ご質問ある方はお願いいたします。いかがですか。</p>
<p>議員委員</p>	<p>「保健・医療との連携強化」のところ、「病院から地域への移行の際の切れ目のない支援の実現や」について、医療と地域への移行がつかない印象があります。ちょっと言葉にすることが難しいのですが、サービスと考えると、医療と保健は少ないと思います。最後の「早期治療や家族負担の軽減を図ること」については、家族の負担の軽減というのは、例えば、地域で医療にかかれることによって、通院の家族負担の軽減になるのか、どういった負担軽減なのか、ちょっとイメージがつかえません。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査)</p>	<p>ありがとうございます。この記述については、基本的にはこれまでの計画にあった目標を踏襲しておりますと申し上げましたが、保健と医療の強化については、ほぼ新設された項目なので、今までの目標設定の内容を読み解きながら、新しく表現をした部分になります。そのため、わかりづらかったかもしれません。</p> <p>いくつかご意見をいただいたところです。まず、家族の負担軽減を図ることにつ</p>

	<p>いては、先ほどのアンケート結果の中で、なかなか地域の医療機関にかかれない、小児医療から次のかかりつけ医が見つからないといった、苦しいお声が寄せられていたことが印象として強く残っておりましたので、そのあたりを念頭において、記載した内容になります。</p> <p>説明を聞けばイメージが湧くけれども、そうでないと何を指すのかわかりにくいと感じられたかと思いますが、そういった理解でよろしいでしょうか。</p> <p>地域の医療機関が利用しやすいことで、という箇所に係りますが、早期治療という言葉が間に入ることでわかりにくくなりますでしょうか。</p> <p>早期治療というのは、例えば、ちょっと風邪をひいた時にすぐに病院にかかれるという治療なのか、病気を診断して治療に入ることなのか。例えば、難病の方がいつまでも診断がつかなくてという、そういった早期治療なのか。または、地域と言っているの、退院した方が地域に帰ってきて、ちょっとしたことで大きな病院にかかれないので、近くの病院で診てもらえるような体制なのか。早期治療という言葉がどの辺りを指すのかという点もわからない部分です。</p> <p>病院から地域に移行しても、病院が行うことは医療が中心で、地域が行えることは福祉的なサービスだったり、訪問看護だったりがありますが、病院の医療とは違うものなので、病院から地域で切れ目ないという、それぞれ役割は並行していくものだと思います。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>まず、そこで切れてしまうという前提に疑問があるということでしょうか。</p>
<p>議員委員</p>	<p>はい。イメージがうまく伝えられないのですが、医療と地域は並行して連携するものだと思います。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>教えていただいて、ありがたく思います。この点については、具体的に書きすぎてしまったのかもしれませんが。</p>
<p>議員委員</p>	<p>「切れ目ない」は入れなくてもよいかもしれません。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>「病院から地域への移行の際の」という部分も浮いてしまうように感じます。</p>
<p>議員委員</p>	<p>大きな専門病院にかかりつつ、地域の訪問診療に来てもらうということはよくあると思います。専門病院と地域の往診してくれる病院との連携という点はあるかと思っています。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>文章としては、2文目の「保健・医療等の関係機関との連携を強化し」から後ろを修正させていただこうと思います。</p>

<p>議員委員</p>	<p>退院はしますが、移行はしないと思います。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>例えば、「強化するとともに、地域の医療機関が利用しやすいことで家族の負担軽減を図ること」だと、少し飛躍しますね。この文章に関しては修正をさせていただきたいと思います。</p> <p>「保健・医療との関係機関との連携を強化し」という点では、関係団体等に行ったアンケートの中でも、歯科衛生士と入所施設の連携が今後必要だと思うという意見もありましたので、そういった部分も今後、連携が必要かもしれないというイメージを持ちながら記載しております。また、「地域の医療機関が利用しやすいことで」という点では、小児医療からかかりつけ医の転換であったりとか、重度の障害のある方が地域の病院を受診したら、患部も触ってもらえなかったという、医師側も障害のある方に対する経験値が足りないのでは、というお声であったりとか、地域の療育に関する医療機関がなかなか受けられない、というお声であったり、基礎調査を通じて様々なご意見が頭に浮かぶため、まとまらない文章になってしまったように思います。</p>
<p>議員委員</p>	<p>移行といった場合、小児から成人への移行期支援という課題はあると思いますが、難病の方が病院から地域に戻ることを移行とは言わないので、そこが一緒になると分かりづらくなってしまうように感じます。保健と医療等の関係機関の連携強化は必要なことだとは思いますが。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>書きすぎることによってよくない面もあるように思います。2文目も、「保健・医療等との関係機関との連携を強化すること」で切った方がよいでしょうか。</p>
<p>議員委員</p>	<p>連携を強化することで、冒頭の「医療的ケアが必要な人や難病のある人が、地域において適切な支援を受けられること」という内容になると思います。</p>
<p>事務局（障害者福祉課小松主査）</p>	<p>ありがとうございます。医療的ケアが必要な人や難病の人に限定をしたくはないので、「等」を多用するのは望ましくないかもしれませんが、「等」に集約するか、「その他障害のある人」のような表現で併記するか、主語は検討させていただきます。</p> <p>ご意見を踏まえて、2文目のところが冒頭にきて、「保健・医療等の関係機関との連携を強化し、」冒頭の部分が後段になり、「医療的ケアが必要な人や、難病のある人、また、障害のある人が地域において適切な支援を受けられること」といった内容とさせていただければと思います。ご意見ありがとうございます。</p>
<p>佐藤部会長</p>	<p>ありがとうございます。ほかはよろしいですか。</p> <p>では、ほかにはないようですので、これで本日の記事はすべて終了として、議長の職を解かせていただきます。皆様ご協力どうもありがとうございました。</p>

<p>事務局（障害者福祉課浅野副課長）</p>	<p>佐藤部会長ありがとうございました。</p> <p>それでは次第の3、その他について、皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>では、事務局から、次回の会議の日程についてお伝えします。追って通知させていただきますが、第4回策定委員会を2月9日月曜日に予定していますので、ご出席のほどよろしく願いいたします。</p> <p>なお、来年度第1回の策定委員会は委員の改選もありますので、おおむね6月末を予定しております。あらかじめご承知おきください。</p> <p>では、以上をもちまして、令和7年度第4回障害者計画等策定委員会部会を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和8年2月27日</p> <p>署名委員 <u>儀具 瑞</u></p> <p>署名委員 <u>原口 展昭</u></p>	